

## 令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県央会場

#### 科目 ⑬子どもの生活面における対応

- ◆ 放課後児童クラブの場では、食については、主におやつの場面ということになるが、食物アレルギーへの対応、衛生管理について、改めて注意喚起の機会となった。屋外での虫取りや砂遊びの後の手洗いの重要性をその都度声かけするだけでなく、子どもたちと学ぶ機会も作りたと思った。エピペンについては、アドレナリン注射であることを知り、使用への怖さがなくなった。定期的な勉強会が必要と思った。
- ◆ 放課後児童クラブでは、おやつやイベントを通じて、子どもたちが食べ物を口にすることが必ずあります。そのため、食中毒や感染症、アレルギーによる重大な事態を防ぐためには、日頃から子ども・保護者・小学校・職員同士のコミュニケーションが重要であることを学びました。また、万が一の事態に備えたマニュアルの策定や訓練の必要性についても、理解を深めることができました。
- ◆ 日頃からアレルギーに関しては丁寧に対応しているが、原因物質摂取2時間くらい後の運動によって引き起こされる「食物依存性運動誘発アナフィラキシー」は初めて知るものだった。健康観察時の参考にしたい。食物アレルギーの対応については、家庭からの聞き取りを丁寧に行った上で、職員間での情報の共有やアレルギーに関する知識の習得、緊急時の対応についての確認などをしっかりとしておく大切さを感じた。
- ◆ 本科目を通して、食中毒や食物アレルギー等への対応に関する必要な知識を学ぶことができた。中でも水や動物、貝などにも細菌が潜んでいるということを知り、身の回りの生活を改めて見直していきたいと思った。さらに、アナフィラキシーショックは命に関わる症状になるため、防止と迅速な対応を身につけておきたいと思った。
- ◆ 食に対しての注意事項を丁寧に説明してくださって、ありがたかったです。そして、今の子どもたちに多いアレルギー。乳幼児期の園では大人が管理することができますが、学童期の子どもたちは、様々な関わりもあり、目の届きにくいこともある。だからこそ、職員たちが情報共有を密にして、子どもたちとの関係も良好にして、安全を守らないといけないと思いました。